

古川なおき 第131号 レポート



自由民主党横浜市議員 古川なおきの政務活動報告

2015年7月21日発行

横浜市の財政と市民の力

皆様お元気ですか！

高校野球の熱い夏となりました。神奈川大会の県立柏陽高校野球部主将の選手宣誓は素晴らしかったですね。スマートフォンやパソコンで観ることができます。炎天下の中、熱戦を繰り広げる高校球児たちに心よりエールを送りたいと思います。

○横浜市の予算

さて、横浜市会は9月まで休会中ですが、自民党政務調査会では、各種団体などの来年度予算に対する要望が多数寄せられています。そこで今号では、横浜市の予算について書かせていただきます。予算というと数字が羅列され難しい感じがしますが、横浜市では「ハマの台所事情」という冊子を発行し、予算を各家庭の家計簿に置き換えて、やさしく説明しています。

横浜市の一般会計は約1兆5千億円と多く、川崎市や京都市の倍です。市民一人当たり約40万円となります（2面参照）。市民税や固定資産税を主な財源として、市民利用施設や道路の整備、市役所や区役所の運営、教育、福祉、医療など様々な市民サービスに使われています。特徴としては、急激に進む少子高齢化に伴い、保育や介護、医療の費用（扶助費）が年々増加しています。一方、市役所や市民病院、文化体育館など様々な老朽化した施設等の建て替えや、環状鉄道や環状道路など横浜の未来に向けた投資も必要です。

<横浜市の予算>

	平成27年度	平成26年度	増減率
一般会計	1兆4,955億円	1兆4,182億円	5.4%増
特別会計	1兆3,947億円	1兆3,756億円	1.4%増

○共創フロントの取組み

人件費や扶助費など毎年度必ず経費が必要となる義務的経費も増え続けるため、横浜市は不断の行財政改革を行わなければなりません。少子高齢社会が進む中、より一層厳しい財政状況が予想されるので、行政も今まで以上に発想を転換し、創意工夫しなければなりません。民間との連携もその一つです。

横浜市では、行政と民間が互いに対話を進め、新たな事業機会の創出と社会的課題の解決に取り組むために、民間企業・団体の皆さんからのご相談・ご提案を受け付ける窓口（通称：共創フロント）を設置しています。横浜市が行っている事業に協賛することや協力することを民間企業や団体から提案することもできます。共創フロントでは※1ネーミングライツなどの広告事業や※2指定管理者制度の取り組みが様々な分野にわたって行われています。共創フロントのホームページも是非ご覧ください。

○発想の転換が必要！

厳しい財政状況ですので、私たち市民の側も発想を変えてみるのが大切だと思います。例えば、身体を動かすことを心がけ健康増進に取り組めば、医療費の削減につながるかもしれません。ゴミを道路や公園に散らかさなければ、清掃の経費を他の予算に回すことができます。防火に注意して火災を起こさなければ消防の経費も抑えることができます。自分の負担が無いからと税金で何でもサービスをしてもらおうと皆が口をパクパクと空けて餌を待っている魚のようになってしまえば、超高齢社会を維持することが難しいと思います。一人ひとりが何かを受けるだけでなく、社会に対して自分に何ができるかを考えることが大切です。私は障害を持っている福祉団体の職員の方を知っていますが、自分自身が障害者でも、他の障害者の方のために一生懸命に取り組まれている姿に、いつも感銘を受けています。少子高齢社会では、この職員さんのように自ら行政に頼るだけでなく、自分の力で行政や社会を支える意識が大切だと思います。

横浜市では、様々な分野でNPO法人やボランティアで社会貢献している人が沢山います。行財政改革とともに市民の皆様のを最大限お借りして、より良い横浜にできればと思います。

7月、8月は盆踊りの時期でもあります。暑い中、準備や後片付けされている役員の皆様には頭が下がります。私もお会いした時はお気軽にお声がけください！（笑）

暑い日が続いておりますので、くれぐれもご自愛ください！

横浜市議員 古川なおき

古川なおきプロフィール
 県立希望ヶ丘高校・明治大学 卒業/明治大学公共政策大学院 修了
 横浜銀行勤務後、衆議院議員秘書
 平成7年4月 横浜市議員初当選(26才最年少)
 現在 平成27年 政策・総務・財政委員会委員長
 健康づくり・スポーツ推進特別委員会
 自民党横浜市議員団所属/横浜市会FCキャプテン
 希望ヶ丘高校同窓会桜蔭会理事/横浜スキー協会会長
 旭区サッカー協会顧問/旭区スポーツダンス協会顧問
 旭区卓球協会顧問/旭区食品衛生協会顧問/旭区剣道連盟顧問

※1 ネーミングライツ…市の施設等に愛称等を付与させる代わりに対価等を得て施設の運営・管理に役立てます。
 ※2 指定管理者制度…公の施設の管理に民間ノウハウを活用しながら市民サービスの向上と経費の節減を図ります。

**横浜市民
ひとりあたり
予算の使いみち**

福祉・保健・医療に	118,399円
子育て・教育に	94,376円
地域活動・区の運営に	17,235円
安全な街に	11,878円
地球温暖化対策・水・緑保全に	28,843円
ごみの処理・リサイクルに	12,945円
道路・住宅・街づくりに	47,223円
横浜の魅力づくり・経済の発展に	28,862円
市役所の運営に	37,849円
地下鉄・バス・水道事業に	5,323円

横浜市の人口
3,711,450人
 (平成27年1月1日)
一人あたり予算
402,933円

☆☆政務調査員・塚本☆による報告

File6 学生会で学校法人日本聾話学校を見学してきました

去る6月29日、東京都町田市にあります学校法人日本聾話学校へ、ボランティアの大学生とともに視察に行っていましたので、今号ではその様子をお伝えしたいと思います。

学校法人日本聾話学校は、私立日本聾話学校と難聴乳幼児の発達支援を行うライシャワ・クレーマ学園から構成され、0歳から中学生までの一貫教育を行う全国でも大変珍しい学校です。設立はアメリカ駐日大使をお務めになられたE.Oライシャワ氏のご両親と宣教師のL.Fクレーマ氏によって1920年に設立し今年で創立95年を迎える日本で最古の私立の聾話学校です。

学校に到着し説明を受けた中でまず驚いたことは、この学校では一切の手話教育を行わないということです。『聴覚障害』と言いますと、私自身も含めて誤解されている方も多いかも知れませんが、まったく聴こえない人はほとんどいらっしゃらず、『いろいろな程度や状態で聴くことに不自由がある方』というのが正しい理解なのだそうです。

こちらの学校では、高度難聴と診断された赤ちゃんを、どのような音域がどれくらい聴こえるのかを専門のオーディオロジー部が精密に検査し、医療機関や電子機器メーカーと協力し、できるだけ早い段階から補聴器や人工内耳を通じて音のある世界に置いてあげる、いわば『耳をひらく』手助けを行っているそうです。

実際に施設や授業の風景を拝見させて頂き感じたことは、どの教室もどの子供たちの表情にも本当に愛情に満ち溢れていたことです。幼児部では保護者が毎日絵日記をつけ、先生と子供の個別話し合いの時間の題材にしたり、専門のスタッフ・言語聴覚士による定期的な面談があったりと、お父さん、お母さんに対する手厚いサポートの様子が伺えました。

また、小・中学部では1クラス最大7名の少人数指導のもと毎日必ず10分間担任の先生との面談があり、子供たちひとりひとりに対する細やかなケアの様子が感じられました。先生に「毎日個別面談をしてどんなお話をされるのですか？」と伺いましたところ、「教師が何を話すかではなく、子供たちの話をどれだけ聞いて、受け止めてあげられるか、それこそが大切です。」とのお答えが返ってきました。

また、「受け止めてもらったという実感が安心感になり、受け止めてもらった経験のある子供は人を受け止められる人間になる。それこそが生きる力です。」とお話くださり、とても印象的でした。実際、卒業された生徒の6～7割が普通高校に進学、さらには大学に進学される方も多く、皆さん社会に出て活躍されているそうです。

大都市の公教育においては日本聾話学校のような少人数指導は難しいですし、子供たちひとりひとりと向き合う時間が物理的に限られているのも事実です。しかし、子供と向き合う姿勢については日本聾話学校から学ぶべきものが多々あるように感じました。そして、これは教育現場に限られたことではなく、家庭や地域の中でひとりひとりが実践できることだと感じました。

また、対子供に限らず、私たち大人同士も、自分の主張を通すことや自分の気持ちを伝えることばかりに注力せず、もっと相手の話を深く聞き、相手の気持ちを深く感じ取ることが円滑なコミュニケーションの第一歩ではないかということをお自身への深い反省の念を込めて、申し上げたいと思います。

最後になりましたが、今回の貴重な機会を頂きました希望ヶ丘在住の鈴木学秀様にはこの場を借りて御礼申し上げたいと思います。有難うございました。

古川なおき事務所スタッフ 塚本 勇太



お気軽にご連絡ください。

FAX: 045-366-9700 / TEL: 391-4000

E-Mail: jm@furukawa2002.com

みなさまのご意見をお待ちしています!

古川なおき政務調査事務所

〒241-0825 横浜市旭区中希望が丘 199-1
 希望ヶ丘駅より徒歩6分

